



こうきた 6月号

杉並区立高円寺北子供園

「思い通りにならない場面」がもたらすもの

園長 川嶋佳恵

令和7年度が始まり、2ヶ月が過ぎようとしています。どの学級の子どもたちも遊びや友達との関わりを心から楽しむ様子が見られるようになり、賑やかな声や笑い声が響く素敵な日々を送っています。

さて、園生活に慣れてくると子どもたちはのびのびと自我を出すようになります。自分の思いが明確になり、発信できることが増えてくると、それに伴い園生活の中で思い通りにいかないことにもたくさん出会います。遊びや生活、または友達との関わりの中で、物の取り扱いになったり、順番を守らなければならなかったり、自分の思いが相手に伝わらなかったり…集団生活の中では、思い通りにならないことの方が多いのかもしれませんが。そういう時に、どのように折り合いを付けていくのか、折り合いの付け方を学ぶことも生きていくうえでは、とても大切なスキルだと考えます。このスキルを身に付けていくためには、遊びや友達との関わりの中で、自分とは違う考えがあることに気付いたり、互いに思いを譲り合ったり、うまくいかなかったことに対してあきらめずに頑張ったり、時には、どうにもならない状況により我慢したり等様々なやり取りや感情体験を繰り返し経験していくことが大切だと考えます。このような経験の中で、子どもたちは、人や状況との折り合いの付け方を学び、大切な「生きる力」を身に付けていきます。

私が最近興味深く読んだ本に薮下遊・高坂康雅 著の『「叱らない」が子どもを苦しめる』という本があります。著者は、近年増加し続けている不登校や学校不適応の特徴の一つとして、「思い通りにならないことに過剰な不快感・不満を覚え、耐えられない」ということがあると述べています。例えばみんなで遊ぶ際に自分がしたいと思った遊びが選ばれず、他の遊びに決まった、鬼遊びで鬼になりたくなかったのに、じゃんけんで負けて鬼になってしまった等「思い通りにならない場面」は学校を始めとした社会的な場で活動するうえでは、避けられないものです。しかし、学校で不適応を示す子どもたちの中には「思い通りにならない場面」に対する拒否感が中核になっている場合があるということです。この背景には、子育ての中で「自由にさせてあげたい」「叱るのはかわいそう」などの風潮が考えられ、いつの間にか「子どもの問題を指摘しない」「ネガティブなところは示さない」というように思い通りにならない場面を経験させないようにしてしまっているのではないかと記されています。もちろん子どもに寄り添うことは、とても大切なことですが、適切に「叱られる」、「止められる」、「諫められる」という「外の世界（子どもの周りにいる人や状況）からの押し返し」によって「子どものこころの成熟」がもたらされるということを知っておく必要があります。そして、子どもが社会的な存在として、成熟していくためには、こうした「世界からの押し返し」を経て、「現実に合わせて自分を調整する」という経験が絶対に必要であり、こうした状況の中で生じる子どもの不快感が親子や信頼関係のある先生との「関係性の中で受け止められ、なだめられながら納めていく」ということが必須であると述べられています。また、このような納めていくという作業は、親や教師が「思い通りにならない環境」として立ちのどかると同時に「その不快感を受け止める」という一人二役をしやすい幼少期が適していると記されています。

ご家庭や園生活の中の様々な場面でお子さんが思い通りにならなくて葛藤する様子は、かわいそうに感じたり、じれったく思ったりすることがあるかもしれません。しかし、思い通りにならないことを経験した時に保護者の方や園の先生たち等身近な大人や友達との関係の中で、思い通りにならない状況を受け止め、気持ちを納めながら乗り越えていく経験を積むことで、子どもたちの心が成熟し、社会的な存在としてしだいに成長していきます。そう考えると、年相応に思い通りにならない壁にぶつかることは、子どもたちの成長には欠かせないものだということが分かります。

成長とともにある社会の中では、友達や周りの人との関わりや関係性が深まると同時に自我を強く出し合うようになり、思いがぶつかり合っけんかになったり、自分勝手なルールや思い込みで行動してトラブルになったり、どうにもならないことを主張して駄々をこねることがあります。このように思い通りにならない場面でも、お子さんが間違っていたり、ここは我慢する必要があるという場面では、お子さんにしっかり向き合っけ、叱ったり、止めたり、諫めたり、受け止めたり、なだめたりしながらお子さんが「思い通りにならない状況を受け止め、納めていけるよう」関わってあげてほしいと思います。



《今月の指導》

★3歳児 うさぎ組

ウレタン積み木が使えるようになり、長くつなげてコースをつくったり、積み上げてつくった場を乗り物や家に見立てて遊んだりすることが楽しくなってきました。また、お面ベルトに紙テープや形の紙をたくさん貼ってつくることも楽しんでいます。セロハンテープを使い始めたばかりで扱いに難しさを感じる姿もありますが、保育者と一緒に手をとってやってみたり、自分で繰り返し挑戦したりしながらできた嬉しさを感じているようです。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 保育者と一緒に好きな遊びを見つけて繰り返し楽しむ。
- 保育者や他の幼児と触れ合い、安心して一緒に過ごす。
- 水遊びの際の着替えの仕方がわかり、自分からやってみようとする。

繰り返し自分たちで場や身に着けるものをつくりながら、つくったもので遊ぶ楽しさを感じられるようにしていきます。また、今月下旬から水遊びが始まります。水遊びでは少しずつ水に慣れ、保育者や周りの幼児と一緒に水の冷たさや心地よさを感じられるようにしていきます。

★4歳児 くま組

先生や友達と一緒に、新しく使えるようになった中型積み木を積んで広い家やお店をつくってごっこ遊びをしたり、いろいろな素材を使って動物やご飯をつくったりする姿が増えてきました。園庭では水路や海など水を使った砂場遊びやサッカー、学級のみんなで遊んだ「カラスとスズメ」の助け鬼などを繰り返し楽しんでいます。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 自分の思いを動きや言葉で表現しながら、先生や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。
- 水遊びを楽しみにし、水に触れて遊ぶ心地よさを味わう。
- 生活の仕方が分かり、自分でできる身の回りのことをする。

好きな遊びや学級のみんなでする遊びの中で、仲良しの友達だけでなく学級の様々な友達と触れ合ったり関わったりして遊ぶ楽しさを十分に感じられるようにしていきます。下旬から始まる水遊び、プール活動では、開放感や心地よさを味わい、水に親しみながら水の中で楽しめる活動を行っていきます。

★5歳児 ぞう組

友達と遊びのイメージを共有しながら、大型積み木を使って大きな家をつくったり、ブルーシートを使ってテントごっこをしたりして遊ぶことを楽しんでいます。また、園内で見付けたテントウムシの卵の成長の様子を見たり、餌となるアブラムシを探して世話をしたりすることも楽しんでいます。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 友達と共通のめあてをもって遊びを進め、やりたいことが実現した満足感を味わう。
- 水の感触や冷たさ、水の心地よさを感じ、水の中で遊ぶ楽しさや解放感を味わう。
- 動植物の生長に興味関心をもち、世話を楽しんだり、収穫物を味わったりする喜びを感じる。

モルモット（ちょこちゃん）のお世話をやりたい子を中心にはじめました。生き物の世話や野菜の世話を通し、生き物を大切にすることの気持ちを育てていきたいと思っています。また、先日の遠足での体験を生かし、友達と同じイメージをもって遊びを進めたり、考えを出し合いながら共通の目的に向かって遊んだりすることができるようにしていきます。